

2022年7月29日

## 阿久根市と日産自動車、電気自動車を活用し脱炭素化と防災力強化に向けて連携 ～『ブルー・スイッチ』185 件目、EV を活用した連携協定を締結～

阿久根市（鹿児島県阿久根市、市長：西平 良将）と、日産自動車株式会社（本社：神奈川県横浜市西区、社長：内田 誠）、鹿児島日産自動車株式会社（本社：鹿児島県鹿児島市西千石町、社長：石原 一智）の3者は、29日、電気自動車を活用した「脱炭素化及び強靱化に関する連携協定」を締結しました。

本協定は、「走る蓄電池」となる電気自動車（EV）の普及や脱炭素化の推進と同時に、阿久根市で災害による停電が発生した際、日産の販売会社から貸与する「日産リーフ」等の電気自動車（EV）を電力源とした電力供給体制の構築を目的とした協定で、ゼロ・エミッション社会の実現を目指す日産の『ブルー・スイッチ』活動としては185件目の取り組みとなります。

### 【協定の経緯・背景】

阿久根市は、環境対策、防災対策に重点を置き、持続可能で強靱なまちづくりを目指し、「再生可能エネルギーの活用推進」、「地域の脱炭素化」、「防災力の向上」を図ることを目的として、2050年までに二酸化炭素の実質排出量ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」を令和3年9月2日に表明しました。

一方、日産自動車は、EVならではの新たな価値やワクワクを提供し続けるとともに、2018年5月より、EVの普及を通じて、脱炭素、災害、エネルギーマネジメント、観光、地方での交通課題などの地域課題解決を目指す、日本電動化アクション『ブルー・スイッチ』を、全国の自治体や企業、販売会社と共に推進しています。また、2030年代早期には、主要市場で投入する新型車すべてを電動車両にすることを宣言、電動化をリードしながら、SDGsの達成やカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを加速しています。

この日産自動車が進める『ブルー・スイッチ』、そして、阿久根市が目指す持続可能で強靱なまちづくり、さらにはSDGsの実現と、双方の取り組みにお互いが賛同し、本協定の締結を行う運びとなりました。



## 【協定の概要と主な連携内容】

電気自動車を活用した「脱炭素化及び強靱化に関する連携協定」の概要は、以下のとおりです。

- ・ 阿久根市および日産自動車、鹿児島日産自動車は、平常時も電気自動車（EV）の普及促進を行うほか、市のイベントで使用する電力を電気自動車（EV）から供給することで、電気自動車の「走る蓄電池」としての活用を市民へ積極的にアピールし、環境・防災意識向上を目指す。
- ・ 阿久根市で災害を起因とする停電が発生した際、市が指定する避難所等に、日産の販売会社の店舗に配備している「日産リーフ」等の電気自動車（EV）を無償で貸与し、EVからの給電により、災害時にも避難所等で継続して電力が供給できる体制を整え、市民の生命及び身体の安全を守る。



電気自動車「日産リーフ」を活用した脱炭素化、強靱化イメージ図

阿久根市は、今後、公用車の更新の際の電気自動車（EV）の積極的な導入や、電気自動車（EV）から電気を取り出す可搬型給電器の導入を計画しており、環境に配慮した電気自動車（EV）の普及を目指し、環境・防災力向上に努めていきます。

阿久根市と日産自動車は、本協定締結を機に、電気自動車（EV）を活用した環境に配慮し、災害に強い持続可能なまちづくりの推進や美しい自然環境を未来に残すため、電気自動車（EV）の普及を通じた地域課題の解決、脱炭素化社会の実現、SDGs 達成に向けて、更に連携を強化してまいります。

以上

First Contact Nissan Technology: <https://www3.nissan.co.jp/first-contact-technology.html>

日本電動化アクション「ブルー・スイッチ」: <https://www3.nissan.co.jp/first-contact-technology/blue-switch.html>